



生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業（ウガンダ共和国）

ジェンダー(男女平等)啓発のセッション

実施日：2017年4月17日、5月3日

場所：チバリンガ初等学校（Kibalinga Primary School）（4月17日午前）、ルワウナ初等学校（Lwawuna Primary School）4月17日午後）、プレシャス子供学習センター（Precious Child Learning center）（5月3日）

<背景>

私たちの多くは、性別、宗教、種族、人種、親の地位などに関わらず、すべての人が平等な権利を有すると信じている。しかし、現実には、特に貧困地域のコミュニティでは、大部分の文化社会上の伝統的な考え方として、女性は男性に劣っているという認識が根強く、このような認識が女子の権利が妨げられる要因となっている。具体的には以下のような考え方がある。

- 女子は嫁ぐことで身を立てるため、勉学に励むことは時間の無駄である。
- 女性の相続権は非常に限られている、もしくは認められていない。
- 初潮を迎えたら結婚適齢期とみなされる。
- 女性にとって出産が唯一の役割であり、その他社会的に重要な役割を担うことができない。

学校でも教師の中に女子生徒のやる気や自信を無くさせるような言葉を使い、性差による不平等な役割分担を教え込もうとする者がいるとの報告もあった。(International journal of innovation, management and technology by Dr. Anita L Allan より)

以前 SORAK が行った一対一でのカウンセリングによると、数名の女子生徒は一部の教師の言葉遣いの不適切さを指摘した。本来、教師は児童たちにジェンダー平等について伝授する役割を担っているため、ジェンダーに配慮し女子生徒たちが学びやすい環境を作り出さなければならず、学校内外での活動において言葉遣いには気を付けなければならない。

<トレーニングの目的>

トレーニングの目的は以下の通り。

- 生徒たちが学校や社会で潜在的に存在するジェンダーにまつわる問題について認識すること

- 生徒たちが性差によって生まれる社会的役割の違いと、それによって生まれる不平等をどのようにとらえ、取り組めばいいのかを理解すること
- 生徒たちの男女の役割や責任の違いに対する理解を促進すること
- 既存の男女の違いに対する理解を深めること



積極的にジェンダートレーニングに参加する男女の生徒（チバリンガ初等学校）

<トレーニングの方法>

- ・ブレインストーミング（質問と返答のテクニック）
生徒同士が質問と返答をするセッション
- ・事例紹介と分析
ファシリテーターや参加者が提供したジェンダーに関わる事例を分析し、理解を深めるセッション

<トレーニングで取り上げたテーマ>

（詳細は‘Gender Awareness Training Manual’を参照のこと）

- ・ジェンダーと性別の違いについて
- ・両ジェンダーの性質
- ・学校における性差別
- ・ジェンダーの認識を変えるための教師の役割
- ・ジェンダーの役割と責任
- ・社会的・文化的視点からのジェンダー基準
- ・ジェンダーに基づいた暴力とその原因

<ファシリテーター>

1. ナカイ フローレンス：JOYI-Uganda 代表
2. ムハマド チェヌエ：SORAK Development Agency 代表
3. シナチルタ ハディジャ：同 プログラムオフィサー
4. ムフムザ アドルフ：同 プログラムオフィサー
5. クレア：Vitiligo Association of Uganda 代表（プレシヤス子供学習センターのみ特別参加）

<参加者>

初等学校4年生から7年生（年齢10才から16才）の生徒が選抜された。それぞれの学校の参加者構成は以下の通り。

◆ チバリンガ初等学校

男子生徒138名、女子生徒142名、男性教師4名、女性教師5名



興味深くトレーニングに参加する生徒達（チバリンガ初等学校）

◆ ルワウナ初等学校

男子生徒132名、女子生徒165名、男性教師3名、女性教師5名



セッションに参加する生徒、教師とイスラム教徒のリーダー（ルワウナ初等学校）

◆ プレシヤス子供学習センター

男子生徒 28名、女子生徒 53名、男性教師 5名、女性教師 6名



プレシヤス子供学習センターにて、トレーニングのあと誇らしげな参加者たち

<トレーニングの成果>

学校毎に以下のような成果が得られた。

◆ チバリンガ初等学校

- 男女のジェンダーの差異について理解した。

- 男女のジェンダーによる役割や責任の違いを説明できるようになった。
- 生徒たちは社会的・文化的な制約により、女性の進学、資産を持つこと、性と生殖に関する（性行為や子どもを産むことを選択する）権利が脅かされていることを学び、これらに対処する方法を学んだ。
- 教師たちは学校におけるジェンダー（男女平等）向上に対応する自分たちの役割と責任について理解した。



チバリンガ初等学校のトレーニングに参加した他校の生徒たち



プロジェクトの一環としてジェンダーバランス（男女平等）について掲げられたメッセージ

◆ ルワウナ初等学校

- 参加者たちは男女のジェンダーの差異について、女性は家庭で家族の世話や、家事を担うことを期待され、男性はお金を稼ぐために外で働いて生活費を稼ぐことを期待される、男子生徒は女子生徒と比較して数学が得意、男子は人前で泣かない、女子は感情的になりやすい。などの男女の差異が存在することを認識した。
- 参加者たちは、コミュニティにおける男女のジェンダーによる役割や責任の違いを挙げるできるようになった。
- 生徒たちは社会的・文化的な制約により、女性の進学、資産を持つこと、性と生殖に関する（性行為や子どもを産むことを選択する）権利が脅かされていることを学び、これらに対処する方法を学んだ。また、早期結婚を迫られた際など（性に関する暴力などを含む）の相談先を知った。

教師たちは自分たちが学校においてジェンダー平等を促進するよう彼らの役割と責任について理解した。また、教員は自身の行動、ふるまい、態度、マナーによって、子どもたちに常に男女平等を認識させる必要があり、生徒たちがそれぞれの目標を達成するために平等な機会を提供するように保証する立場にあると理解した。



ジェンダー平等についての役割と責任について耳を傾ける生徒と教師達（ルワウナ初等学校）



13歳のレーナちゃんは祖母によって生理中に着用した衣服を焼かれたというエピソードを話してくれた

◆ プレシャス子供学習センター

- 参加者たちは男女のジェンダーの差異について理解した。
- 参加者たちは、男女のジェンダーによる役割や責任の違いを説明できるようになった。
- 生徒たちは性差別（レイプや暴力など）に対処する方法と相談先を学んだ。
- 教師たちは学校教育においてジェンダー問題や男女平等に取り組む際の役割と責任について理解した。

参加した教師より「私は今まで5年間教鞭を取ってきたが、自分の使う言葉について真剣に考えたことがなかった。今回のトレーニングを通じて、自分の言動に注意を払っていきたいと感じた。SORAKの運営するプレシャス子供学習センターのナジュコ・ジェーン先生に感謝する。」



左：男性教師とトレーニング参加者の男子生徒



右：同じ男性教師と女子生徒



ジェンダーに対する意識の欠如が原因で、
いかに暴力問題に発展するかを語るムベンデ地域の役人



白斑（白斑：皮膚が部分的に白くなる皮膚病）を患った女性や女子の間での
ジェンダー問題のエピソードを語る白斑組合代表者

<今後の課題と提言>

- ジェンダーは幅広いテーマであり、実質半日のトレーニングで深い理解を促すのは困難であり、この問題を取り上げ語り尽くすには3日間程度確保する必要がある。
- 教育制度はジェンダーに配慮したものでなければならない。また、チバリング初等学校で男子生徒が女子生徒と一緒に着座しなかった事例からも、男子生徒は女子と混合での授業に抵抗があり、居心地が悪いと感じる場合がある。
- 教育委員会は教師たちに対してジェンダー平等の啓発として教師が使用すべき言語などを学ぶトレーニングなどの補修コースを提供するべきである。
- より質の高いジェンダー教育のためには家庭と学校の協力関係が強化されるべきである。家庭での両親もしくは保護者間のジェンダー不均衡が生徒たちに多大な影響をあたえ、子供は性別に応じて不平等に扱われるべきだという考えを持った保護者に大きな影響を受ける。
- 保護者の中には、女子は結婚させることが重要で女子の教育は価値がないと伝統的な考えを信じている。学校と保護者との連携によりそのような認識を変えていく必要がある。上記の提言に基づき、保護者、教師に対してもジェンダーのトレーニング行われるべきである。教師と保護者双方に対するトレーニングを行うことで教育の場と家庭との両方からジェンダー平等の意識を浸透させることができる。また、女子の教育を軽視する家庭や女子に注意を払わないなどの不平等について議論するためにも、保護者・教員のミーティングの場を設けることも提案する。
- 生徒、教師、及び保護者に対してジェンダーに関するカウンセリング、また地方公務員、行政官等に対してもジェンダーのトレーニング行われるべきである。そうすることでジェンダーの視点を取り入れた法案の提案、法令の施行につながるものと考えられる。教育委員会はジェンダー教育に対して適切な予算が確保されるべきである。また、そのために前述のような公務員や行政担当官に対するトレーニングが有効である。



SORAK Development Agency

Registered NGO: No:8726

UEB Zone, Church Road -Mullago, P.o Box, 71883 Clock Tower -Kampala, Tel:+256 703515225

Mubende Office: Lusairi T/C, 16km from Mubende Town along Mubende -Fort portal Road



NPO法人グローバルブリッジネットワーク
Global Bridge Network

ジェンダーの意識向上トレーニングガイド

■ 「ジェンダー」の定義とは？性別と同じ？

性別とは生物、身体的特徴による男女の定義であり、ジェンダーとは社会的な男女の定義のもとに生じる男女の行動や社会的役割等の定義である。

■ ジェンダーによる特徴の例

- 女性は家族の世話や家事をして家庭内に留まるべきである
- 男性は家族のために働き、収入を得るべきである
- 男子生徒は女子生徒よりも数学が得意である
- 男子は人前で泣かない
- 女子は感情的である

■ 学校や教育の場におけるジェンダー差別の例

- 女子生徒は通常男子生徒よりも長時間学校外の家事に従事する。平均的には女子は1日あたり4.5時間、男子は2.5時間家事に従事する
- マラウイ南部の事例では、女子は70%、男子は38%を家事に、男子は41%、女子は13%を遊びに費やす
- 教師の中には男子生徒を女子生徒より熱心に指導する者もいる

■ ジェンダーの認識を変えるための教師・教育者の役割

- ジェンダーによる差別を助長するような教材を使わないように注意する
- 真摯にジェンダーに関する課題を扱い、教育の場で平等な扱いを推進する
- 常に自分の振る舞いや態度によって生徒たちに正しい男女平等の認識を与えるように気を配る
- 様々な角度から生徒たちが性別に関わらず平等に扱われ、各自が目標を達成出来るような機会を与えるべきである
- 常にジェンダーに関して注意深く配慮をする
- 生徒たちの良いモデルとなるように振る舞う

■ ジェンダーにおける役割と責任

男女それぞれに複数の役割があり、それらは以下の3種類に分類できる

1. 生産的な役割
2. 出産・子育てにおける役割
3. 地域での役割

1. 生産的な役割

家庭や地域の収入や経済的福祉に関わる活動であり、男女共に様々な活動を担っているが、その中でも女性の役割は以下のようなものがある。

- 養鶏や養豚など家畜の世話
- 販売するための食品加工
- 在宅産業
- 賃金を得る仕事

一方、男性の役割は以下のようなものがある。

- 工場や産業での肉体労働
- 正規の仕事
- 肉牛の飼育

2. 出産・子育てにおける役割

これらには家庭を築き、守るための役割であり、その中でも女性の役割は以下のようなものがある。

- 妊娠
- 出産
- 母乳による育児

3. 家庭・地域での役割

日常生活の中で家族や地域の基本的な要求を満たすために行う奉仕（サービス）であり、以下のようなものがある。

- 薪集め、燃料の提供
- 子どもの教育
- 保健
- 食事の用意や食品の加工
- 水汲み